学校番号	3010

令和5年度 数学 科

教科	数学	数学B	単位数	2 単位	年次	3 年次
使用教科書	新編数学B改訂版（啓林館）					
副教材等	プリント					

1担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では、課題に対して自ら考え、周りの人と協働で考える活動を行います。「課題を理解する→結果を予想する→解決の方向を構想する→解決する→解決の過程を振り返ってよりよい解決を考える」といった一連の過程で、自分の考えを発表したり、議論したりする活動を行います。

履修条件　人数制限：なし　持ち物：教科書、プリント

2学習の到達目標

数列、ベクトルについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。

3学習評価 評価 規準 と評価方法

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方・考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	数学的な活動を通して、数列、ベクトル、確率分布と統計的な推測における考え方に関心をもつとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	数学的な活動を通して、数列、ベクトル、確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付け、事象を数学的にとらえ、論理的に考えるとともに、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えている。	数列、ベクトル、確率分布と統計的な推測において、事象を数学的に考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、的確に問題を解決できる。	数列、ベクトル、確率分布と統計的な推測における基本的な概念、原理・法則、用語・記号などを理解し、基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
1	第1章　数列	第1節　等差数列 1. 数列とその項 2. 等差数列 3. 等比数列 第2節　いろいろな数列 1. いろいろな数列の和と和の記号Σ 2. 数列の和と一般項	○	○	○	○	a:いろいろな数列に関心をもつとともに、その規則性を表現することのよさを認識し、事象の考察に活用しようとしている。 b:数列の規則性や一般項、和を考察し表現したり、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的なものの見方や考え方を身に付けている。 c:等差数列や等比数列をはじめとした様々な数列の一般項や和を論理的に考え、求めることができる。 d:等差数列や等比数列の一般項や和の基本的な概念、性質を理解し、知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
2	第1章　数列	第3節　漸化式と数学的帰納法 1. 漸化式 2. 数学的帰納法	○	○	○	○	a:いろいろな数列に関心をもつとともに、その規則性を表現することのよさを認識し、事象の考察に活用しようとしている。 b:数列の規則性や一般項、和を考察し表現したり、その過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 c:漸化式から数列の一般項を求めたり数学的帰納法を用いて命題を証明したりすることができる。 d:漸化式、数学的帰納法の基本的な概念、性質を理解し、知識を身に付けている。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査
	第2章　平面上のベクトル	第1節　ベクトルとその演算 1. ベクトル 2. ベクトルの和・差・実数倍 3. ベクトルの成分 4. ベクトルの内積 第2節　ベクトルと図形 1. 位置ベクトル 2. 位置ベクトルと図形 3. ベクトル方程式	○	○	○	○	a:ベクトルに関心をもつとともに、それらの有用性を認識し、事象の考察に活用しようとしている。 b:事象を、ベクトルを用いて考察し表現したり、思考の過程を振り返ったりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。 c:図形をベクトルを用いて表現・処理することができる。 d:平面上のベクトルの意味や演算、成分および内積などの基本的な概念について理解することができる。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査

3	第３章　空間座標とベクトル	第1節　空間ベクトル 1. 空間の点の座標 2. 空間のベクトル 3. 空間のベクトルの内積 4. 位置ベクトル 5. 空間のベクトルと図形	〇	〇	〇	〇	a:空間までベクトルの概念を拡張し、空間図形をベクトルを用いて考察することができる。 b:空間図形における点、直線、面をベクトルを用いて表現することができる。 c:空間図形における事象をベクトルを用いて求めることができる。 d:空間においても座標が定められ、空間内の点は3つの実数の組として表されることを認識することができる。さらに、空間においてもベクトルが定義され、内積を含むベクトルの演算、位置ベクトルの考えなどが、平面上の場合と平行して同様に考察することができる。	・授業態度 ・発問評価 ・ノート確認 ・課題プリント ・小テスト ・定期考査

※　表中の観点について a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断・表現
c:技能　　d: 知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点
・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。